

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「政策立案の場に身を置いて」 「農林水産大臣政務官に就任」

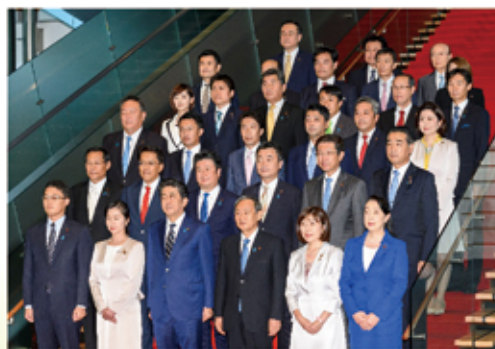
令和元年9月11日に発足した第4次安倍第2次改造内閣において農林水産大臣政務官に就任いたしました。政務官の辞令交付式は13日、総理官邸で行われました。

江藤拓農林水産大臣の下、伊東良孝副大臣、加藤寛治副大臣、河野義博政務官と協力して、農業者のための農業政策の実現に向けて全力で取り組んで参ります。農林水産行政の政策立案の場に身を置き、より一層、農家の声を国政に反映させていきます。

19歳で就農して以来、一貫して生産現場で農業と向き合ってきました。こうした農業経験を持つ国会議員は他にいません。農業をしていたからこそ分かること。そうした現場感を政策立案に反映したいと決意を新たにしています。農家の声を国政に届ける。私の使命はご支援をいただいた皆様と共にあります。

これからも現場に足を運びながら一生懸命努力をする農家の方々と共に、よりよい農業環境を作っていきたいと考えています。

これからも現場に軸足を置き、農林水産行政に新しい風を吹き込んでいけたらと思っています。



▲各省の大臣政務官らと

【相次ぐ自然災害、家畜伝染病対策に全力】

豪雨や台風災害が相次いで発生しています。被害に遭われた皆様から心からお見舞い申し上げます。私も政務官就任後、茨城県と千葉県の現地を視察し、深刻な農業被害の状況を目の当たりにしました。特に、停電の長期化による二次被害も深刻化しています。災害復旧対策と合わせて災害に備える体制の整備に取り組んでまいります。

加えて深刻なのは豚コレラの感染拡大です。連日のように豚コレラ防疫対策本部が開かれ、議論が重ねられています。今後、ワクチン接種が可能となるよう防疫指針の改定作業を進めていくことが決まりました。加えて農場への防護柵等の設置、飼養衛生管理の徹底も不可欠です。

連日のように生産者から要請を受けており、現場感を持って早急に収束に向けて政府一丸となり取り組みます。

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

「豚コレラ対策など、課題は山積です」

「一番の課題は豚コレラ対策です」

大雨や台風等による自然災害、日米貿易協定など、課題は山積しています。一番の課題は、発生後1年経つ豚コレラ問題です。イノシシ対策や、豚舎の防疫対策にもかかわらず、豚コレラの拡散が続いています。とうとう養豚の多い関東にも及び、このままでは、大変な事態になります。党の少人数農林幹部会合（インナー会合）を連日開催し、どう判断するかを詰めました。

【ワクチン接種を決断】

全体として、ワクチン接種には慎重論が多いのですが、問題は、ワクチン摂取後の豚肉の販売価格についての心配です。ワクチン摂取の豚肉と、そうでない豚肉との扱いが区別できるのかどうか。販売価格が異なるのではないのかが心配です。小売店の表示が「ワクチンを打っていません」、「打っています」というようなことになれば、これも混乱を招きます。また、「ワクチン清浄国からの豚肉です」という形の輸入の豚肉が出回ることも想定されます。わが国が元の清浄国に戻るために、何年かかるのか、ということもあります。

また、養豚農家の経営上の問題もあります。一体、ワクチンを打った豚肉の

価格低下に伴う補償はどんな形でなされるのか、それは準備されていると聞きますが、どういった補填水準になるのか。マルキン等の価格補填は当然対象にならなければなりません。共済支払い等はどんな形になるのか整理しなければなりません。

また、ワクチン接種に際しては、都道府県知事の権限になっているので、防疫指針の見直しを行い、知事によるワクチン接種の命令と、ワクチン使用の許可を発することが必要になる。どこから、どんな形で接種するのか、拒否する農業者への対応はどうするのか、それら手順や対策が求められる。また、販売店等に、きちんと表示を求めるのかどうか、という価格設定を行って販売するのか等々についても、国による指導が求められる。

これらを詰めた上での流通・販売対策が講じられなければならない。流通・販売サイドにも、誠実な対応が求められます。

今後、様々な問題が出てくると思いますが、私もインナーの一員として、共に考え、しっかりと対処していきたいと覚悟しています。



▲豚コレラ対策の充実に関する大臣要請